

令和2年度使用小学校用教科用図書採択結果等について

大竹市教育委員会

種目	発行者	採 択 理 由
国 語	東 書	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入を1ページ設定し、「言葉の力(つきたい力)」「既習事項とのつながり」を示した上で、「つかむ」で課題を設定し、手引きで学習過程を示し、「ふり返る」では、単元導入の「言葉の力」を詳しくまとめる構成になっている。 ・「読むこと」の領域では、「問い」を基に学習が進められるよう、手引きの最初に主となる発問例が示され、経験の少ない教員でも扱いやすい。 ・重点指導事項を示している「言葉の力」は、つながりを明確にできるよう前学年の「言葉の力」が、巻末に一覧で示している。 ・思考を整理するツールとしてのノートやメモ、カード、図表など、情報の扱い方や工夫が具体的に示されている。 ・全学年に図書館機能の活用について示されている。 ・古典の取扱いが豊富であり、日本の伝統・文化にかかわる学習の充実が期待できる。 ・学習の流れが児童によくわかる構成になっている。
書 写	東 書	<ul style="list-style-type: none"> ・「書写のかぎ」を一単元に一つ配置し、「見つけよう」→「確かめよう」→「生かそう」→「ふり返って話そう」と学習過程を提示し、課題解決型の展開をしている。 ・ワイドな紙面で手本が大きく見やすい。左利き用の写真、配置の工夫による利き手に関わらない文字の見えやすさなど、左利きへの配慮がされている。 ・巻末には既習の「書写のかぎ」が一覧にまとめられていて、ふり返りやすい。 ・書写の正しい姿勢の定着のために、児童がイメージしやすい表現をしている。
社 会	東 書	<ul style="list-style-type: none"> ・見開きごとに、冒頭に「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の学習過程と本時の目標に関する学習問題が示されている。 ・主体的・対話的で深い学びが実現できるように問題解決的な学習を効果的に取り入れている。「まとめる」では、学習したことを振り返り、自分の考えを書いたり話し合ったりする表現活動を提示している。 ・Dマークのある教材から、QRコードかアドレスを使ってインターネットを使った学習をすることができる。 ・写真やイラスト等のキャプションの文頭に見開きごとの通し番号と矢印が挿入されている。 ・社会の見方・考え方を培うための発問や展開がわかりやすい。
地 図	帝 国	<ul style="list-style-type: none"> ・「地図って何だろう」「地図のやくそく」「地図帳の使い方」を12ページにわたって丁寧に扱い、地図帳を使いこなす基礎力を育むようにしている。 ・人々のくらしが読み取れるように、土地の高さによる色分けに、市街地、田・畑など土地の使われ方による色分けを組み合わせた地図表現をしている。 ・地図が淡い色づかいで見やすい。地名等の情報量が適切で、特に3、4年生にとって使いやすい。

種目	発行者	採 択 理 由
算 数	啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・「たてる」→「かける」→「ひく」→「おろす」の計算の順序が左から右へ見開き2ページを使って示されている。表示が大きく、色分けもされているので分かりやすい。 ・毎時間の学習で、「学びのめばえ」マークのふきだしを入れて、「学習の進め方」の流れに沿った問題解決的な学習ができるように課題を配列している。 ・既習事項を1ページ使って1mの値段を求めるのはわり算になることを数直線図と関係図で説明し、言葉の式でまとめている。 ・問題の解き方など説明の仕方が習得できる構成になっている。 ・問題の解き方など多様な考え方が載っており、児童の考えと照らし合わせて確認しやすい。 ・ブロックの表示の仕方が5のまとまりを大事にしている。さらに、5のまとまりの絵がわり算にも出てきて、つながりがある。
理 科	啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・単元末の「ふり返ろうまとめノート」では、まとめの例が示され、「新しく学習した言葉」では理科用語が示されているため、基本的な内容を押さえ定着を図ることができる。 ・単元はじめのページに「学習のめあて」が示され、「考えてみよう」「思い出してみよう」などで、既習内容を想起したり自分で問題を考えたりできるよう疑問が投げかけられているため、思考を促すことができると考えられる。 ・巻末のプログラミング用「シート&シール」を用いて、まず条件と動作の組み合わせを紙で思考させた上で、プログラミング体験ができ、プログラミング的思考に適している。 ・自然災害を扱う単元のはじめには、PTSDへの配慮事項が示され配慮されている。 ・問題→仮説→実験→結果→まとめなどの探究の流れが明確に示されている。
生 活	東 書	<ul style="list-style-type: none"> ・写真資料が多く、被写体が鮮やかで大きいので分かりやすい。資料・写真から成長の様子を知ることができる。 ・地域探検活動中の児童の会話が吹き出しで数多く示され、コミュニケーションを通して活動を展開していく様子がよく分かる。 ・すごろく・絵本・巻物など多様な形式で自分のことをまとめる例が掲載されており、お互いの成長や自分の成長に気付くことができる。 ・同じ場所の季節の移り変わりが掲載されており、体験活動の後に教科書で振り返ることができる。
音 楽	教 芸	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の学習内容が巻頭見開きで、系統的にイラストを使って表示されている。 ・キャラクターの吹き出しの中で、音や音楽を「音楽の見方・考え方」を働かせて捉えさせる工夫をしている。 ・巻末の「ふり返りのページ」に各学年で学習した音楽を形づくっている要素が、関連するページ番号とともに記載されている。 ・鑑賞したことをまとめる活動の中で、聴き取り方と話し合いの視点を記述している。 ・和太鼓の演奏の仕方について詳しい記述があり、日本の伝統・文化の学習の充実につながる。
図画工作	開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・図画工作科の授業を通して育てたい3つの資質能力に対応した「学習のめあて」を各題材の冒頭に配置、その中の重点を下線・色で強調している。

種目	発行者	採 択 理 由
		<p>また3つの資質能力に対応したキャラクターも身近に感じさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 重点的に育てたい力に対応した、児童が自己評価する際の手助けとなる「ふりかえり」を文で示してあり、文章が簡潔で分かりやすい。 材料や用具の取り扱い、説明の仕方は、題材名の上に絵と写真で示し、分かりやすくしている。題材によって、配慮すべき内容を「安全」「かたづけ」の囲みを設けて具体的に示している。 題材への興味を高めるように単元名を工夫している。
家庭	東 書	<ul style="list-style-type: none"> 全題材を3つの小題材（「見つめよう」、「計画しよう・実践しよう」、「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」）で展開することで、問題解決的な学習を進めることができる。 学習指導要領で示された家庭科の見方・考え方を「家庭科の窓」として設定し、全ての大題材のタイトル横に大切な視点を示している。「生活を変えるチャンス！」にも4つの視点から見つめ記述があり、生活をよりよく変えていくことを意識させている。実践例も具体的で分かりやすい。 目次の裏ページに2年間分の学習が示されている「成長の記録」があり、自分で学習を振り返り3段階でチェックすることで自己評価することができるようになっている。 巻末の「いつも確かめよう」の調理実習技能では、包丁で材料を切る際のいろいろな切り方が示されているが、写真とイラストの両方を使って切る順序まで詳しく説明されている。また、実寸大の写真が多く掲載されているため、紙面に手を載せて確認し、まねをしながら習得することができるなど技能を高める工夫となっている。よい例、悪い例が掲載されていることも児童にとっては分かりやすい。
保健	東 書	<ul style="list-style-type: none"> どの小単元も右ページから始まり、課題を発見する1ページをとっている。そして、次ページに学習の課題を記載することで課題がすぐにはわからない工夫がされている。 ワークシート形式で書き込むスペースが多く、書いたり話したりする活動ができる。 課題発見・思考・まとめの場面で記述できるスペースが充実している。（記入欄の幅が広く、書き込みがしやすい。） 写真が多く、わかりやすく示されており、学習内容の理解を助ける。
外国語	東 書	<ul style="list-style-type: none"> Can-Do リストが別冊の「Picture Dictionary」の中に示されている。5年生と6年生の2年間を見通した目標の示し方となっている。また単元ごとの目標が示されている。 ワードリストが「Picture Dictionary」として、別冊になっている。カラーのイラストとともに表示されており、ジャンル別にまとめられている。単語が4線の上に書かれている。 ライティングにかかわり、正確に書けるよう見本を見ながら書くという配慮がある。
道 徳	日 文	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容一覧の中に、その教材に関わっている現代的な課題のテーマが書かれており、指導するのに役に立つ。 教材のはじめに、登場人物をイラスト入りで提示している。また、導入となるあらすじが2行ほどあり、話のあらすじを理解しにくい児童にも内容を把握しやすく興味が持続できる。 教材にあわせた「道徳ノート」があり、1教材1ページという指導の実践に即した構成となっている。また、終末の発問は、実態に応じた発問ができるようあえて発問を記載せず、空欄にしてあるため使用しやすい。 道徳ノートが別冊になっているので、評価に役立つ。

種 目	発 行 者	採 択 理 由
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳ノートのみ繰り返しの発問が、授業者の創意工夫が活かせるようになっている。

※ 「発行者」欄には、教科書目録により略称を記入。